

## 人工妊娠中絶に対する男性教師の意識

兵庫教育大学大学院 矢野裕子

〈目的〉 わが国の中絶に関する先行研究においては、実際に中絶をした女性の実態と意識に焦点があてられてきたものが多い。しかし、中絶問題は男女両性の問題であることから、本研究の対象は、男性、特に社会人であり、かつ十代の性にも向き合う男性教師とする。本研究の目的は中絶のイメージ、中絶に関する法律、避妊や中絶手術、産むか産まないかの決定権についての意識を明らかにした上で、望まない妊娠をした場合、出産か中絶かの選択の違いがどのような要因によるのかを明らかにするものである。

〈方法〉 対象は、現職教員が多い教員養成系の3大学の大学院生で、方法は、無記名の質問紙法を用い、1994年9月5日から10月21日の期間に直接配布方式などで実施した。配布数は610で、回収数は478で、回収率は78,4%、現職教員でない院生の票と不明回答が3分の1以上のものは無効として除き、有効回答数として393を得た。

〈結果〉 対象者の属性は、男性が333人で女性が60人である。男性は、20歳代が15人(4,5%)、30歳代が263人(79,0%)、40歳以上が55人(16,5%)である。女性は、20歳代が7人(11,7%)、30歳代が26人(43,3%)、40歳以上が27人(45,0%)である。男性で既婚者は285人(85,6%)、女性で既婚者は32人(53,3%)である。子供の有無別は、男性では「あり」が259人(43,3%)、女性では「あり」が26人(53,3%)である。

避妊は男性の責任と考える男性は多かった。避妊の現状は、コンドームを選ぶ男性が317人(95,2%)で最も多く、2番目に選ぶのは膈外射精で110人(33,0%)である。

中絶の方法や障害の知識は、例えば中絶手術に麻酔を伴うことを知っている人は、男性で240人(72,5%)、女性で56人(93,3%)など、男性の方が女性より少ない。